

高齢者講習指導員に対するアンケート調査結果

1. 高齢者講習指導員に対するアンケート調査の回答状況

- 高齢者講習指導員に対するアンケート調査を実施し、運動機能の低下と危険運転の関係、実車試験導入の是非等について、分析を行った。

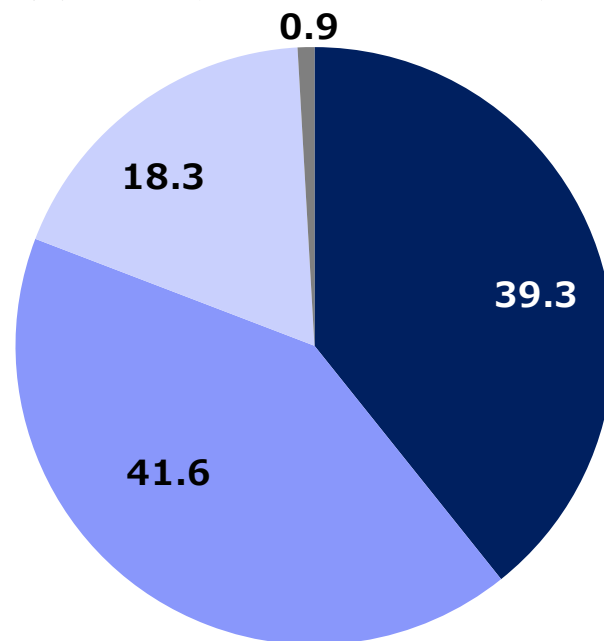
- 実施教習所：
調査対象の教習所等に所属し、高齢者講習に携わる指導員
- 実施時期：平成29年11月13日（月）～12月10日（日）
- 調査手法：郵送アンケート調査
- 有効回答数：1997件

2. 実車試験導入の是非について

- 実車試験導入の是非について尋ねたところ、指導員の39.3%が賛成、41.6%が反対と、導入の是非はほぼ同程度であった。

問 1. 一定の高齢運転者に対する実車試験導入の是非について

■ 賛成 ■ 反対 ■ どちらでもよい ■ 無回答



【反対の主な理由（自由回答より）】

- ・ 代替となる移動手段の確保や生活支援施策の充実等、社会的な支援の整備が先決ではないか
- ・ 現状の高齢者講習を充実させるなど、試験ではなく教育による解決策が有効ではないか
- ・ 実車試験だけで免許の取消し等を判断することは難しいのではないかと（明確な基準作りが難しい）
- ・ 試験合格の基準に達する高齢者は少ないため、技能試験は有効ではないと考えている
- ・ 高齢者への負担が高まるのではないかと

【賛成の主な理由（自由回答より）】

- ・ 自主返納ではなく、リスクが特に高い高齢運転者には運転させないようにすることが必要である
- ・ 今後、高齢化が進むことを考えると、危険運転に直結するレベルまで身体機能が低下する人が増加する
- ・ 実際に講習時に危険な運転をされる高齢者もいるため、試験による選別が高齢者の事故低下に繋がる
- ・ 試験導入により、高齢者の意識改革にも繋がる（法規の再勉強等の機会にも繋がる）
- ・ 特に自覚も無く運転機能の低下を認めない高齢者等に有効ではないかと

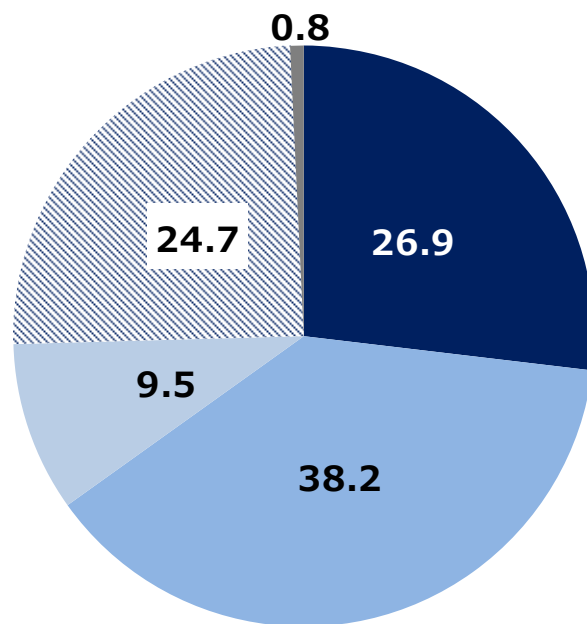
N=1,997

3. 運転技能が低下していると考える年齢

- 年齢と運転技能の低下との関係について尋ねた結果、75歳以上で低下していると考えた割合は26.9%、80歳以上が38.2%、85歳以上が9.5%であった。

問2. 高齢者講習の指導を行っている中で、特に運転技能が低下していると考える年齢

■ 75歳以上 ■ 80歳以上 ■ 85歳以上 ■ その他 ■ 無回答

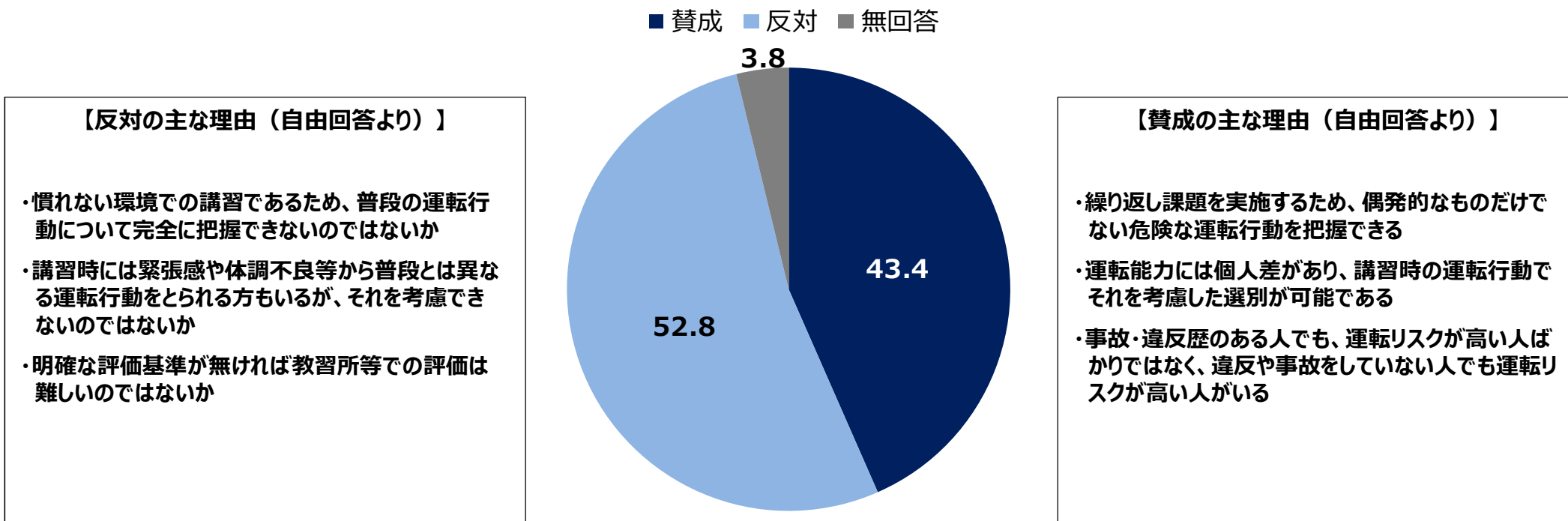


N=1,997

4. 実車試験の対象者の選定について①

- 実車試験の対象者を選定するに当たって、高齢者講習の実車指導の際の運転行動を考慮することの是非を尋ねたところ、賛成が43.4%、反対が52.8%であった。

問3. 実車試験の対象者を選定するに当たって、高齢者講習における実車指導の際の運転行動を考慮することの是非について



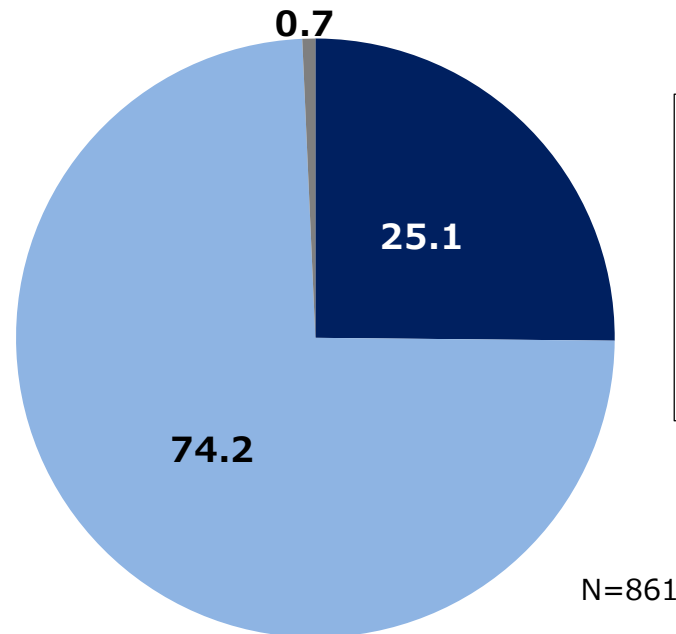
N=1,997

4. 実車試験の対象者の選定について②

- 問3で賛成と回答した指導員に対して、高齢者講習の実車指導のみを対象者を選ぶ基準とすることについて尋ねたところ、他の要素について考慮した方がよいとの回答が74.2%と、高齢者講習のみでよいとの回答を大きく上回った。

問4. 高齢者講習における実車指導のみを実車試験の対象者を選ぶ基準とすることについて

- 高齢者講習のみでよい
- 他の要素（過去の違反・事故歴など）についても考慮した方がよい
- 無回答



【他の要素についても考慮した方がよい 主な理由（自由回答より）】

- ・実際の交通環境下での運転行動や振る舞いを把握できないのではないか
- ・法規の理解ができていない受講者への対応ができていないのではないか
- ・認知機能の低下等による危険な運転行動は、過去の違反や行政処分との関係性が高く、それらを考慮すべきではないか

【高齢者講習のみでよい主な理由 （自由回答より）】

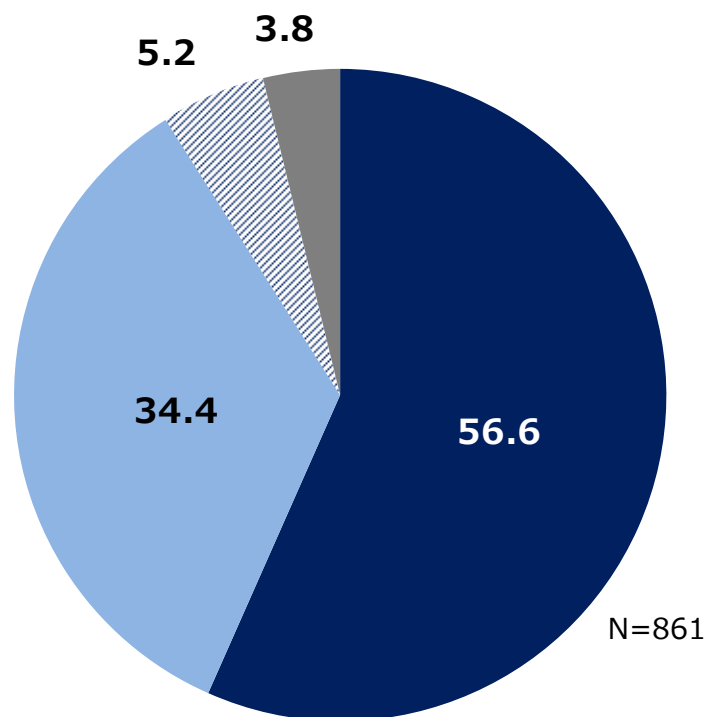
- ・違反や事故が無いことが、必ずしも安全な運転行動と繋がらないため
- ・過去ではなく現時点で、法規を理解していたり、安全運転ができているかが重要であるため

4. 実車試験の対象者の選定について③

- 問3で賛成と回答した指導員に対して、どのような運転行動がみられた場合に実車試験の対象とすべきと考えるか尋ねたところ、危険運転行為がみられた場合と回答した割合が56.6%、ある課題について複数回挑戦したものの成功に至らなかった場合と回答した割合が34.4%であった。

問5. どのような運転行動がみられた場合に実車試験の対象とすべきか

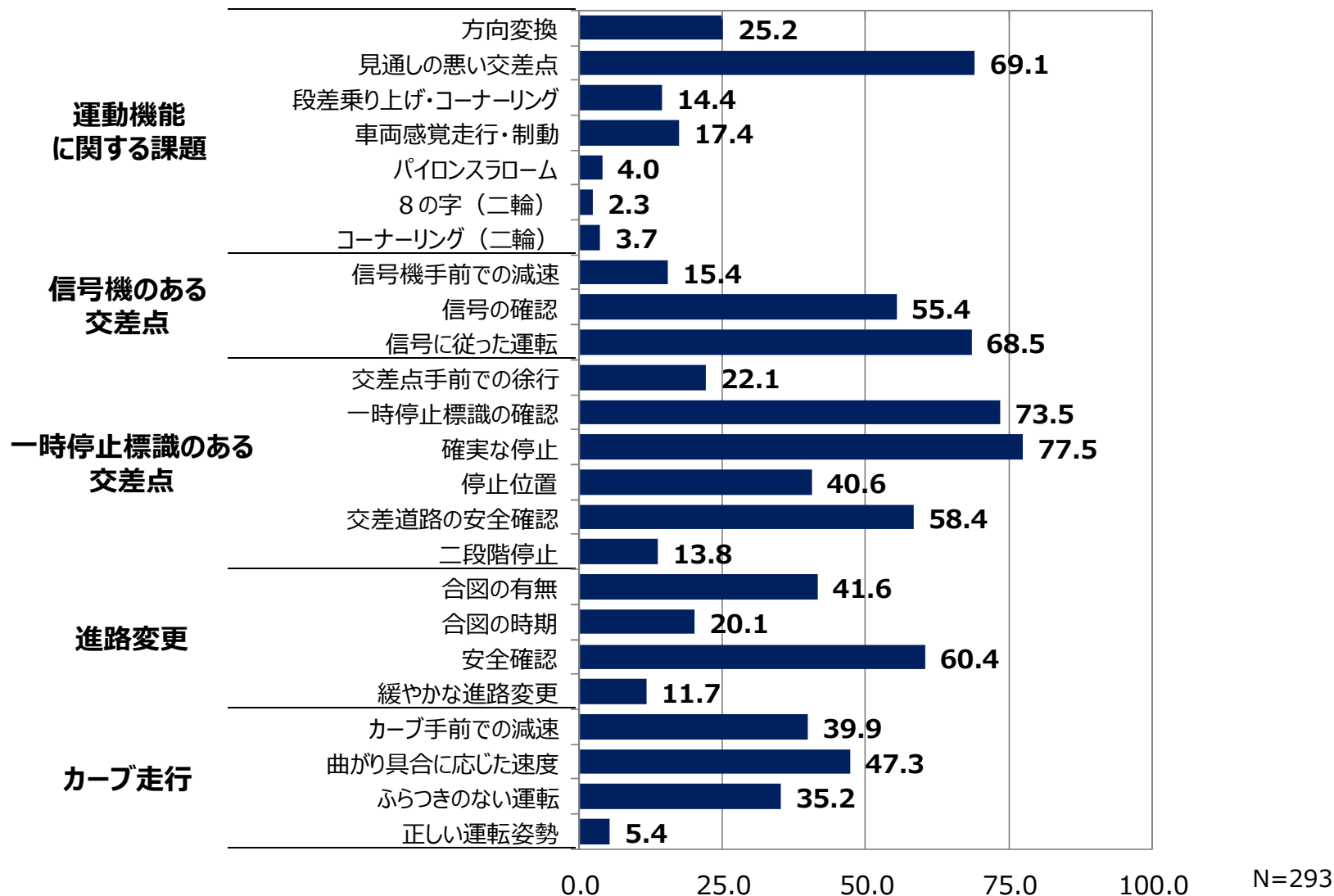
- 危険運転行為（運転免許試験の試験中止行為等）がみられた場合
- ある課題について複数回挑戦したものの成功に至らなかった場合
- ▨ その他
- 無回答



4. 実車試験の対象者の選定について④

- 問5で「ある課題について複数回挑戦したものの成功に至らなかった場合」と回答された方について、成功しない場合には実車試験の対象とすべきと考える課題について尋ねたところ、以下のとおり、交差点での確実な停止、標識等の確認、見通しの悪い交差点など、交差点に関する課題への回答が高い傾向。

問6. 高齢者講習の実車指導における課題のうち、成功しない場合には実車試験の対象とすべきと考える課題（複数回答）

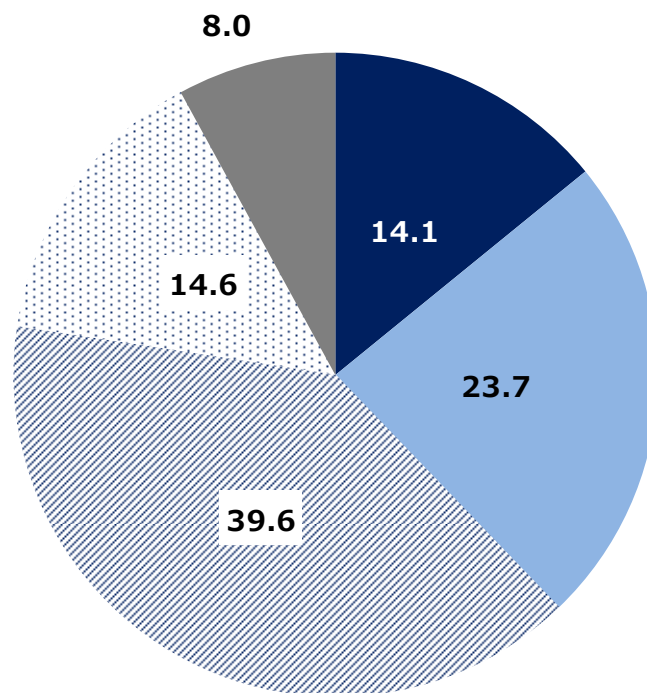


5. 実車試験の内容について

- 実車試験の内容として適当であると考えるものについて尋ねたところ、「[免許取得時と同等の試験]のうち、高齢運転者の身体機能の低下が影響を及ぼすと考えられる課題に限った試験」との回答が39.6%と最も高かった。

問7. 実車試験の内容として適当であると考えるもの

- 免許取得時と同等の試験
- 外国免許の切替えの際の技能試験と同等の試験
- ▨ 「免許取得時と同等の試験」のうち、高齢運転者の身体機能の低下が影響を及ぼすと考えられる課題に限った試験
- ∴ その他
- 無回答

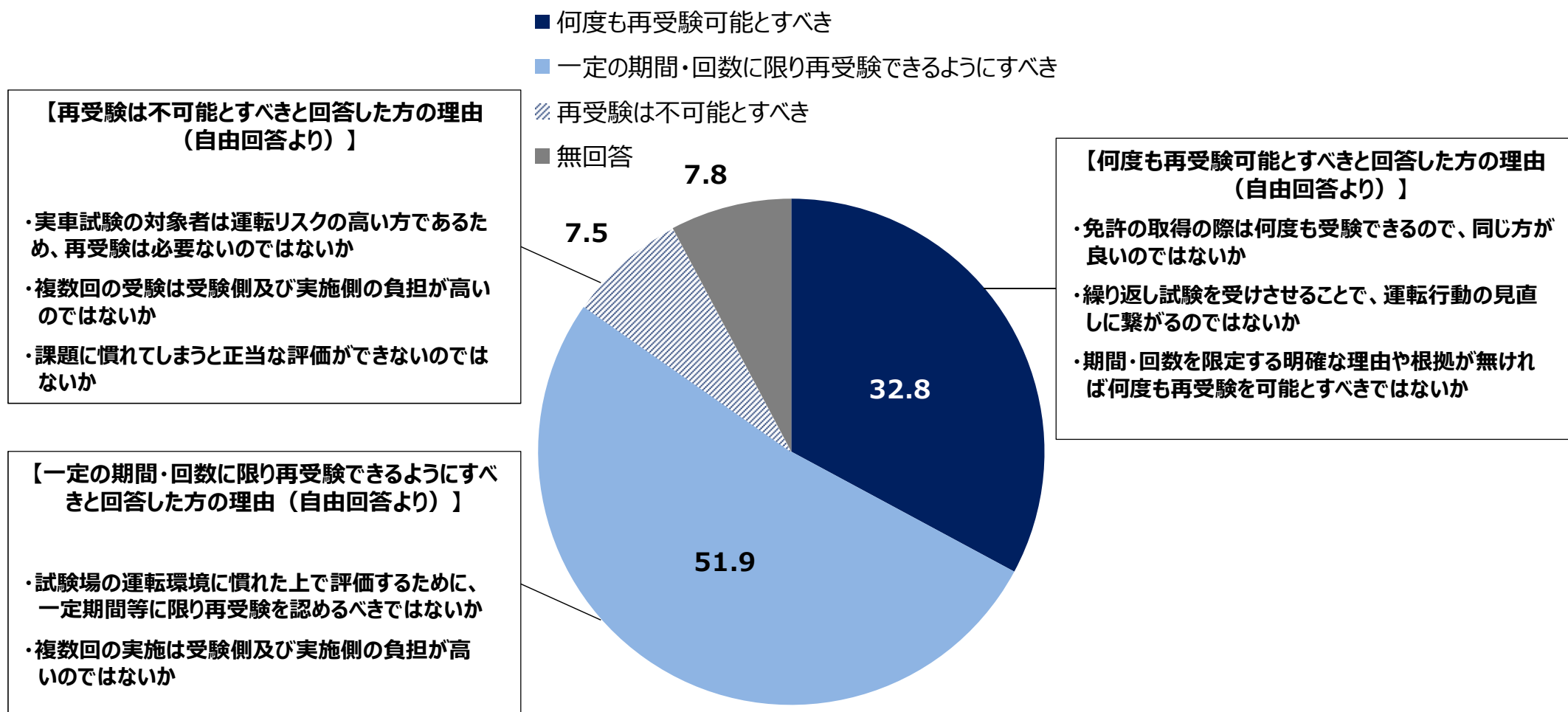


N=1,997

6. 実車試験不合格者の再受験の是非について

- 実車試験に不合格であった場合の再受験の是非について尋ねたところ、一定の期間・回数に限り再受験できるようにすべきとの回答が51.9%と最も高く、次いで何度も再受験可能とすべきとの回答が32.8%であった。

問9. 実車試験に不合格であった場合の再受験の是非について



N=1,997

7. 実車試験を指定自動車教習所で行うことの是非について

- 実車試験を指定自動車教習所で行うことについて尋ねたところ、反対が72.9%、賛成が22.1%であった。

問10. 実車試験を技能検定のように指定自動車教習所で行うことについて

